

大学発の地球惑星科学アウトリーチに求められるものは？～金環日食観望会を事例として～

What is needed to evaluate the outreach of geoscience?

清水 右郷^{1*}, 飯野 孝浩², 川本恭平³, 望月沙也可⁴

Ukyo SHIMIZU^{1*}, Takahiro IINO², KAWAMOTO, Kyohei³, MOCHIZUKI, Sayaka⁴

¹ 名古屋大学情報科学研究科, ² 名古屋大学理学研究科太陽地球環境研究所, ³ 名古屋大学環境学研究科, ⁴ 名古屋大学理学部

¹Graduate School of Information Science, Nagoya University, ²Solar-terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University,

³Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University, ⁴School of Science, Nagoya University

名古屋大学ミュージアム活性化プロジェクト NUMAP (ニューマップ) は、名古屋大学の学生及び若手研究者により構成される団体であり、2007年以来さまざまな科学コミュニケーション活動の実践を重ねている(望月、2012など)。近年は実践の評価手法の確立および実践へのフィードバックを可能にする評価手法の開発に取り組んでいる。2012年5月の金環日食にあわせて本学を会場として観望会を実施し、その中で大学発のアウトリーチとしての特色を打ち出すために本学における太陽地球系科学研究の紹介や、日本史における日食の記述をまとめるなどの企画を実施した。その際、観望会への参加がどのように参加者に意識変容をもたらすかのアンケート調査を試みた。調査結果として、参加者が好意的に評価したものは実際の観望を伴ったものに偏在していた(川本ら、2012)。また、参加前の興味・関心の高さが意識変容に対して正のフィードバックを示した(飯野ら、2013)。しかし一方で評価手法への問題点も多く見つかリ、これらは多くの科学コミュニケーションや他のアウトリーチ活動への示唆になるのではないかと考えられる。本発表では NUMAP および本観望会の概要を紹介するとともに、調査結果を示しながらその手法の問題点についての考察を提示する。また、現在進めている調査活動についても紹介する。

望月 (2012) 市民と大学をつなぐために, *理 philosophia*, 23, 19

川本ら (2012) 学生によるアウトリーチに求められるものは？-名古屋大学における金環日食観望会での調査を事例として-, 第26回天文教育研究会年会

飯野ら (2013) NUMAP 年間活動報告 2012, 名古屋大学博物館報告, 28, in press

キーワード: アウトリーチ, 科学コミュニケーション, アンケート調査, 金環日食観望会

Keywords: outreach, science communication, survey research, evaluation, annular eclipse